

定 価 1 部 140 円 (本 体 133 円 千 共 200 円)
予 約 購 読 料 1 年 分 千 共 5,000 円
紙 代 の み 3,500 円
振 替 00140-9-145275
本 紙 を 購 読 ご 希 望 の 方 は 、 前 金 を
そ え て 、 お 近 く の キ リ ス ト 教 書 店
へ お 申 し 込 み 下 さ い 。
教 会 の 購 読 料 は 負 担 金 に 含 み ま す 。

発 行 所 日 本 基 督 教 団
169-0051 東 京 都 新 宿 区 西 早 稲 田 2-3-18
日 本 キ リ ス ト 教 会 館 内 電 話
03(3202)0546
FAX03(3207)3918
発 行 人 竹 前 昇
編 集 主 筆 竹 澤 知 代 志

八幡鉄町教会

メッセージ

フィリピの信徒への手紙 1 章 12 ～ 14

前進する福音のために

七條真明

「兄弟たち、わたしの身に起こったことが、かえって福音の前進に役立ったと知ってほしい。」

フィリピの信徒への手紙は、使徒パウロの獄中書簡の一つとして知られています。捕らわれの身となった

そのところでパウロが書いた手紙です。パウロの身に起こったこと、伝道者パウロが捕らえられたことは、

どんなに教会の人々を悲しませ、落胆させる出来事であったろうかと思えます。

しかし、パウロが書いたこの手紙は、「喜びの手紙」と呼ばれる手紙でもありません。「喜びなさい」という語りかけが繰り返され、落胆する者たちを励ま

します。手紙をしたためた者が捕らわれの身というマ

イナスの状況にあることなど微塵も感じさせないほど

に、不思議な明るさがある手紙には満ちています。

行き詰まりの状況の中で

私がスタッフの一人として開催の準備に関わっているある集会のテーマについて、準備のための委員会で話し合いをしました。

誰からともなく『信仰の継承』をテーマにしてはどうかという意見が出され、他の委員も賛成して『信仰の継承』をテーマにするこ

とがすぐに決まりました。もちろん私も重要なテーマとして積極的に賛成しました。

「信仰の継承」と一口に言

っても、そこで一つの家庭における親から子への信仰の継承を考えるか、もっと

現代の日本の（おそらくは世界の）教会が直面している一つの状況が非常によく現れているのだということ

が思ふようにうまく行っていない、むしろ非常に厳しい状況がある、そういう認識を私たちの誰もが共有している、そのことをよく

承」といってを巡っても私たちの取り囲むさまざまな事柄の中に、マイナスの状況を見出そうとすれば、

ふちあたっていることをよく表しています。将来への展望も簡単には

パウロが獄中で、捕らわれの身になったその場所で見ていたものは、捕らわれの身になっている自分の

ようか。キリストの福音の力に対する確信を新たにされて、福音のために私たちが前

それでも福音は前進する

しかし、そのような中で、本当に小さなことの中に現れている福音の真実に触れ

我が家に三人の幼い子どもたちがおります。普段の生活において

は行きません。果たしてこの子たちは、信仰の歩みをする者になるだろうか」そ

で遊んでいた子どもが、礼拝の中で歌われた讃美歌を一人

うことが許されると思ったのです。キリストの福音は、

少年が生き抜き、食べるために、イタリヤ半島を縦断する話だ。この作家の特徴

前進する福音の力に押し出され

我が家に三人の幼い子どもたちがおります。普段の生活において

パウロがキリストのために捕らわれているのを見て、多くの人が「確信を得、

で、福音が前進する事実について、福音が前進する

か。しかし、そのような状況の中で、私たちがやっていると

うことが許されると思ったのです。キリストの福音は、

少年が生き抜き、食べるために、イタリヤ半島を縦断する話だ。この作家の特徴

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

教師異動

この紙面を借り、日本の皆様にお別れの挨拶が出来ますこと、感謝に耐えません。私どもが日本伝道の働きを始めたのは1988年、盛岡の善隣館、潮義勇牧師のもとでした。当時、善隣館のディレクターで、私も家族を抱きかかえんばかりに、温かく迎えて下さいました。先生は私たちの伝道にける気持ちを育てて下さり、短い期間で日本を心から愛するようになりました。私たちは外人ですが、盛岡は私たちの日本での生まれ故郷です。

業、教団事務局で働き始めました。夏には毎年教団の青年代表を世界各地で行われる青年伝道会議に引率しました。ケイは、seesee・an Newsletterの編集の仕事にも携わりました。多くの教会に招かれ、説教や証しをする機会にも恵まれました。

語など、時々日本語さえ耳にします！多くの教会がある一方、まったく教会に関心を示さない人も多くいます。その意味ではロサンゼルスに住みながら世界中に伝道をしているようなものです。私たちは教団に深く感謝いたします。教団での経験は私たちの信仰を育て、また非キリスト教社会でどのようにして信仰を育むかを教えてくれました。

『教団に属する全国の信徒の交流の機会は三〇有余年もたれていない。教区内での交流は比較的良く行われているので、その交流の輪をつなぎ合わせなければならぬ。』

三ツ谷友起子さん

挫折を友として

下谷教会員。1959年生まれ。

神の全能の力の中に生きる

ゼブリー・クリスチャン
ゼブリー・ケイ

(PCUSAから教団への派遣宣教師)

06の開催はまさに奇跡であり、教団の新しい青年活動の夜明けでした。一テサロニケ、5章24節、「あなたがたをお招きになった方は、真実で、必ずそのとおりにしてください」の御言葉の通りです。

信徒の交流の時を

三ツ谷友起子さん

挫折を友として

下谷教会員。1959年生まれ。

と書いていましたが、神様の計画は別でした。善隣館で英語を教えて一年たった頃、教団が、青年プログラムを改善すべく長期契約の宣教師として私たちを招いて下さいました。この新しい使命は私たちが大学時代に得た青年伝道への使命という、予言ともいえる幻を具現化するものでした。私たちは1999年に盛岡を去り東京の日本語学校に通う傍ら学生キリスト教友愛会(SCF)で英語を教えました。SCFで出会った生徒たちとは楽しい思い出があります。

2001年に日本語学校を卒業、教団事務局で働き始めました。夏には毎年教団の青年代表を世界各地で行われる青年伝道会議に引率しました。ケイは、seesee・an Newsletterの編集の仕事にも携わりました。多くの教会に招かれ、説教や証しをする機会にも恵まれました。

語など、時々日本語さえ耳にします！多くの教会がある一方、まったく教会に関心を示さない人も多くいます。その意味ではロサンゼルスに住みながら世界中に伝道をしているようなものです。私たちは教団に深く感謝いたします。教団での経験は私たちの信仰を育て、また非キリスト教社会でどのようにして信仰を育むかを教えてくれました。

『教団に属する全国の信徒の交流の機会は三〇有余年もたれていない。教区内での交流は比較的良く行われているので、その交流の輪をつなぎ合わせなければならぬ。』

三ツ谷友起子さん

挫折を友として

下谷教会員。1959年生まれ。

下谷教会員。1959年生まれ。

下谷教会員。1959年生まれ。

下谷教会員。1959年生まれ。

下谷教会員。1959年生まれ。

下谷教会員。1959年生まれ。

下谷教会員。1959年生まれ。